

採用現場5000件に

吉田東光

現場監視カメラのニーズ高まる

吉田東光（さいたま市、吉田産業社長）がレンタルする現場監視カメラシステム「現場見守る君」の採用件数が順調に伸びている。今年度のレンタル合数はこれまで2000台以上を上積みし、約8000台に達した。採用現場数は約6000件（同社調べ）を数え、建築現場等のサポートに欠かせない存在になってきた。

実績を普及に増やしている「現場見守る君」は、専用アプリを介してスマートフォンなどに現場のライブ映像を配信するシステム。ライブ映像だけでなく、クラウド上に保存した動画の画像デー

タでの確認も可能だ。現場への取り付けは、レンタル式カメラを専用金具で架設パイプなどに据え付ける。戸建て住宅の現場では、1〜3台の導入が一般的だ。夜間は赤外線装置が自動起動する

ので、24時間の現場確認ができる。カメラをクラウドームにはスマートフォンを採用することで日差しの強さを軽減する。小スペースで使える置き型のハンディタイ

プもある。また、置き型には、このほど屋内で使いやすいインドアタイプも登場した。

同システムの建築関係のユーザーは、ハウスメーカーや工務店が多い。同社調べで約90%

のユーザーからは「休日の悪天候時でもスマホで確認できる」「遠隔地の現場がリア

ルタイムで確認できて現場管理に役立つ」「電源さえあれば配線不要で設置・撤去が楽」といった声が届いている。

導入先は多岐で、建築関係のほか、河川管理や店舗などでも実績がある。最近では、工

場での導入も増えている。このほか、建築現場採用では、施工向けの現場確認・状況の情報共有での使用もあり得る。



遠方の現場確認を可能にする「現場見守る君」

現場確認だけでなく防犯、職人の安全管理やマナーアップ、天候確認など、導入先の状況に合わせて用途は自在だ。工場の場合、機械の稼働状況確認にも活用されている。

このほか、建築現場採用では、施工向けの現場確認・状況の情報共有での使用もあり得る。

レンタルは全国対応で、同社は今後、各地方でのPRに力を入れる。2019年1月には、宮城県東の「宮城・仙台住宅リフォーラムフェア」（1月12、13日開催）に出展する。また、大阪での展示会出展も計画 중이다。